

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	高齢者グループホーム はる Aユニット	評価実施年月日	平成19年9月30日
評価実施構成員氏名	工藤・松本・六間口・須藤・熊沢・佐藤・二瓶・道下・西海		
記録者氏名	工藤知伸	記録年月日	平成19年10月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	町内会において、本年度は班長を務めることにより、事業所の所在もより明確に知ってもらうことが出来た。		
2	○ 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の理念に基づいて取り組んでいる。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	近隣の商店に利用者を伴って買い物などに行ったり、近くの公園に散歩に行ったりしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の新年恒例会、または、はるの開園記念日には、記念品を持参する程度であり、隣近所との付き合いはあまりない。	○	近所の方が気楽に来れるように、働きかけたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	忠和の親睦団体に参加し、毎月(冬期間は除く)の例会・総会等等、交流を深めている。 町内会に参加しているが、これはあくまでも個人の参加で、団体での参加は認められていない。 町内のお祭り、鼓笛隊などは、積極的に見学。 春の大掃除などには、利用者と共に公園などの清掃を行っている。	○	団体として町内会の参加を認めていただき、町内会各種行事に参加したいと思っているが、町内会の事情により難しいようである。
6	○ 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方に、地域運営推進会議のメンバーとして参加していただいている。	○	地域の社会資源の活用について、会議で話し合いを持つ。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日常生活の中で、介護計画書における援助目標などを実践できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活 かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に一回開催、事業所での活動内容を具体的に報告し、意見を求めている。		
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外 にも行き来する機会を作り、市町村とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者とは、会議・研修会の以外には行き来する機会は少ないが、又、生活保護の利用 者が数名入所しているため、保護課担当職員と行き来する機会ある。		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性 を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用 できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用はしていないが、すでに研修会に参加し、その必要性は感じている ところである。	○	身元引受人の不明な人については、成年後見制度の活用が必要と思われる。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 で虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている。	虐待防止の観点から、利用者の権利を作成し、職員にも周知している。	○	毎月開催しているフロア会議(サービス担当者会議)において、改めて虐待の事実がないかを確 認していきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家 族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている。	今までに病気以外で中途解約した利用者は存在せず、日常的に家族からの要望に応じるよう努 めている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている。	特にそういう機会はないが、生活保護の人は市の保護課の担当者、ならびに民生委員との面会 の場を設けている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている。	年に二回の「はる便り」の発行、または最近、利用者の近況報告の送付などを始めたところであ る。 また、ミニドックの結果について、気になる点は、電話などで連絡している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員 並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている。	管理者や職員がいつでも苦情を聞く体制は出来ている。	○	年1・2回の家族会の開催

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月末に行われる全体会議、第一水曜日に行われるフロア会議、必要な時に開かれる主任者会議を設け、出来るだけ沢山の職員の意見を反映させる努力をしている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整については、職員に無理がかからないよう、必要人数の確保に努めている。	○	ホームヘルパー育成の民間機関とも調整し、優秀な人材の確保に努めたい。(実習生の受入を積極的に行なっている。)
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	約3ヶ月に一回のローテーションにて各フロア1名づつの異動を行っている。 最低限の一名づつの異動であるから、利用者へのダメージを防ぐことが出来ている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎年、札幌で行われる「グループホーム介護スタッフレベルアップ研修会」(一泊二日)には、二名ずつ参加し、意識向上に努めている。	○	車椅子利用者の入浴方法など、等施設にあった技術的指導を受けたい。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当ケアマネジャーが月一回、地域包括支援センターにて、他の施設職員と情報交換するなど、交流を深めている。		
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	例年、社員の旅行会(予算100万)の実施、年に数回の飲み会の実施。 休憩時間はプライバシーを尊重し、個室でゆっくり休めるよう配慮し、また喫煙も容認している。	○	飲み会には、概ね全職員が参加する。 親睦旅行には、決まって参加をしない職員がいる、旅行会のあり方の検討が必要。 職員の環境についての要望を聞いていきたい。
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得に意欲を持って取り組んでいけるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所希望のため、見学に来た折には、面接をし、問題点を分析するなど「課題分析」に努めている。	○	今後、療養病床の削減に伴い、医学的管理が必要な人、あるいは、末期がんの人の受入も増えると思われ、職員の勉強会なども必要と思われる。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者ばかりでなく、家族の訴えを十分に聞く姿勢をいつも持っている。		
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	場合によっては、グループホームでは受け入れられないケースもあり、本人にとって、どこが最適か見極める努力をしている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所することに本人が納得しない時などは、おやつの時に来てもらったり、昼食を家族と同席してもらうなどの対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中、また各種行事等で、共に時間を共有することによって、利用者の性格を知り、仲間意識が芽生え、より良い信頼関係を構築するよう努力している。	○	利用者の歩んできた人生を出来るだけ多く語ってもらい、その中から教えられることを見つけ、共感し合いながら支援して行きたい。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者を入所させる事で、体調を取り戻したという家族もあり、本人を支援することは、家族を支援していることにつながっていることを実感する。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入所後に良好な親子関係を取り戻したというお話を聞き、家族と職員の協力体制が成り立っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努力しているが、なじみの人や場所との関係は途切れてしまっているのが現状。	○	施設に閉じこもることなく、本人のなじみの場所とのつながりを持たせて行きたい。(外出行事の実施...ドライブ、買い物、散歩等々)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事での席などには、気を使い、利用者同士が、穏やかに食事が取れるよう配慮している。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了者に対する関わりは特に持っていない。	○	今後、必要であれば、どんな形で継続できるか、検討していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のフロア会議でその人が出来ること、興味を持ちそうな事などの検討を重ねている。		
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族にセンター方式の書類に記入していただき、それまでの生活歴などの把握に努めている。	○	センター方式に記入をいただいていない家族、あるいは、家族のいない利用者については、本人などからの聞き取りに努力していきたい。
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間生活シート(日誌)の記入により把握している。	○	現状のシートに不都合があれば、改めていくなど検討していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の意向を踏まえ、会議などで職員の意見を聞き、計画書の作成に努めている。	○	作成された計画書の周知については、別途会合など設け浸透したものに行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回の介護計画変更は行っている、また状態像が変わった場合には、その都度介護計画書の見直しを行う。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の24時間シート(日誌)には、全員が必ず目を通し、利用者の日常の様子などは把握している。	○	日常生活の中で気づいた点などは、工夫をしていく努力が必要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	車椅子使用者への新たな支援として、リフト付車椅子対応車を導入した。 エレベーターの設置	○	町内に事業所の多機能性を開放していく取り組みを考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方には、運営推進会議のメンバーとして参加してもらっている。 近隣の派出所には、年に1度敬老会の記念の粗品とともに利用者の顔写真付きの名簿などを届けている。	○	地域のボランティアなどの申し入れがあった時などは、速やかに対応できるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	当ケアマネジャーが、地域包括支援センターにて、月1回の会合に参加し、他のサービス事業者と交流を持っている。	○	他のサービス事業者でのサービス内容なども情報として取り入れていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	当ケアマネジャーを通じ、地域包括支援センターと引き続き協働していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の看護婦長の週一回の訪問、医師の月一回の訪問などにより、利用者の健康管理に努めている。 年に一回はミニドックを受診し、精密検査、あるいは、入院が必要になった時は、速やかに支援するようにしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	旭川赤十字病院精神科に数名受診しているが、その際に医師に色々相談をしている。	○	認知症等専門医の講演、研修会には、積極的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在3名の看護職員を確保し、週一回の協力医療機関の看護婦長の訪問を受け、健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院時には必ず職員も同席し、病院関係者との連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期においては、何より本人と家族の要望に答えるようにし、かかりつけ医師との連絡も密にとり、全員で支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化したり、終末期の近づいた利用者への対応については、何時もスタッフが申し送りなどへの記録により、統一した支援体制で臨んでいる。本人、家族の意向を尊重し、かかりつけ医との相談も欠かさず行っている。		
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	どんな場合でも、受け入れる態勢を持ち、否定的な言葉がけなどは控えるよう努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	例えば、自宅において、何時間も徘徊していたという重度(介護度4)の認知症利用者に対しては、一日に一回職員が同行して散歩するなどの支援をすることで状態像が落ち着いてきている。	○	本人の思いや、希望を十分に表せられない利用者については、職員が、少しのサインを見逃さないように努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事の際、出来るだけ自分で食べてもらえるよう、時間がかかっても、その人のペースを尊重し、見守りつつ、時々援助するなどしている。	○	利用者個人個人の日常生活の中で取り入れていきたい事などを見つける努力をする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	二ヶ月に一度の訪問による理容を実施しているが、希望者には、本人の望む美容室に送迎したりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	味噌汁作り、材料の下ごしらえなど、利用者が出来ることは、みんなで協力してもらっている、配膳、あと片付けなども手伝ってもらっている。	○	メニューの希望などあれば、とりいれていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒の希望者には、夕食時に提供している。また、喫煙に関しては、場所を定め、タバコの管理は職員が行うようにし、楽しみながら、喫煙している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用者についても、排尿、排便の記録(排泄パターンの把握)することで、ポータブルトイレに移行できるように支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回限られた時間での入浴であるが、他のユニットの入浴日を利用すれば、週4回の入浴が可能である。お風呂好きな人、2名が週4回の入浴を楽しんでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの利用者に寝具類の洗濯なども記録し、いつも清潔な状態になっているよう支援している。	○	布団の丸洗いを年に一回行っていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々生活の中に書き取り、書道、盆踊り、体操、歌などを余暇活動として取り入れている。毎年行事として、美瑛の丘、紅葉散策などを可能な限り外出の機会をもっている。	○	重度の被介護者への楽しみのある支援のあり方を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の意向により、金銭所持している利用者については、使うことへの支援をしている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物希望する利用者に同行し、買い物支援をしている、二日に一度の食材の買出しには、利用者が気晴らしに同行している。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族のいない利用者には、職員が個別に趣味等にお付き合いをしている。	○	いろいろな問題点を克服しながら外出支援を試みていきたい。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけられる人は、自分で掛けるようにしているが、かけられない人などは、職員が代わって掛けるなどしている。	○	利用者自らが、出来る範囲で家族に手紙を書けるような取り組みをしていきたい。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問の際、人数が多い時など、居間を利用してもらうなどの配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全体が、身体拘束をしないという原則をしっかり守り、危険回避のため、やむを得ず拘束する時は、15分以内をするなど全員(1F勤務者)が周知している。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊等の問題行動を持つ利用者が行方不明になった経緯もあり、玄関は施錠している。利用者の安全確保の為、やむを得ない措置と、家族にも理解してもらっている。		
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に職員の誰かが、利用者のケアを担当するようにし、出来るだけ目を離さないように注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の居室内での持ち物については、掃除の時などにそれとなく注意を払って点検するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入所者が行方不明になり、三時間後に無事発見されたという経緯があり、その後、事故防止の観点から、玄関の施錠、ココセコムの装備を行なった。又事故報告書を作成し、職員間で情報を共有化を図っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルや、救急車の連絡方法などについては、徹底しているが、応急手当についての訓練を定期的には行っていない。	○	看護師の指導のもとに、定期的な訓練の機会を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に一回、避難訓練を行っているが、地域の人々への協力を働きかけてはいない。	○	近隣の住民の方たちや、警察、消防にも協力が得られるような働きかけが必要と思われる。緊急連絡網に近隣の連絡一覧表を作成。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	特に訪問の少ない家族に対しては、電話等で体調などを連絡し、家族の意向に沿えるよう努めている。	○	年二回、家族に送付している、便りの中に、個人の情報なども盛り込む工夫もしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックなどで体調の変化に注意し、早目の病院受診を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効などについては、処方箋を見て、確認するようにしている。薬局にて一包化してくるもの、職員が分包するものがあるが、誤薬のないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけに取り組んでいる。	一日の水分摂取を記録し、便秘になりがちな人には、下剤を調節したり、水分摂取に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をし ている。	自力で歯磨きができる人には、出来るだけ声かけをし、自力で出来ない人については、入れ歯 の洗浄、うがいに心がけている。又、週に一回ボリデントを使った洗浄を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、一人ひとりの体調の把握に役立てている。又、食事介助の必要な利用者 には、飲み込みの状態に気を使いながら、支援している。	○	献立表を栄養士に見てもらい、アドバイスをしてもらえる機会等を設けたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、 MRSA、ノロウイルス等)	予防対策の一つとして、塩素系漂白剤による、手すりの消毒を一日に二回行っている。又、消毒 液(オスバン液)の薄め液での床拭きを毎日施行している。利用者には、食事前の石鹸での手 洗いなどを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全 な食材の使用と管理に努めている。	二日ごとに食材の買出しをし、常に新鮮な材料を使うよう心がけている。又、調理器具などは毎日、漂白剤につけるなどで衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやす く、安心して出入りができるように、玄関や建物周 囲の工夫をしている。	玄関の階段にスロープがつき、車椅子での移動が楽になった。	○	冬期間、屋根の雪の落下に注意が必要なため、安全対策が必要を思われる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光 がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔に心がけ、又、季節にあったし創作物を飾り、四季の移り変わりを感じられるよう工夫してい る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような居場 所の工夫をしている。	食堂にソファを置いたり、見守りが必要な利用者には、そこで日中、横になってもらったり、一 緒に団らんをするなど工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者によっては、仏壇を置いている人、鏡台などを置いている人さまざまであり、歩行の困難な人は、ポータブルトイレを設置するなどしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冬期間は昼夜通して、暖房を入れ、温度差がないよう気を配っている。又、毎日掃除の時には、必ず窓を開け、換気している。喫煙者のために新しく換気扇を二箇所設置した。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部構造は、一本の廊下に左右に居室、洗面所が並んであり、死角となる空間がなく、人目で利用者の行動が把握出来るようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の壁には、利用者の写真を貼り、洗面所、トイレなどを表示するパネルなどを貼り、場所の確認をしてもらっている。	○	トイレの場所が確認できない利用者があるため、もっとはっきりわかる目印が必要と思われる。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には、花壇を作り、駐車場には、家庭菜園などがあり、庭いじりの好きな利用者が、野菜の収穫、草取りなどをしている。	○	家庭菜園の一部にブドウを植え、ブドウ狩りを楽しませたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☆ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☆ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☆ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☆ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☆ ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☆ ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☆ ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者の健康管理について…体調の変化には早めに対応し、適切な医療機関を受診するなど、早めに対応するよう心がけている。
食事管理について…職員が交代で献立を立て、直接、店舗に赴き、食材の購入をしている。新鮮で旬な材料を取り入れ、出来るだけ
手作りのものを提供するよう心がけている、利用者からの評判も、とてもよい。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	高齢者グループホーム はる Bユニット	評価実施年月日	平成19年9月30日
評価実施構成員氏名	松本・赤坂・林真・西勝・浅野・鉢呂・大段・堀内		
記録者氏名	工藤知伸	記録年月日	平成19年10月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	はるの基本方針に「市民活動の継続」という項目があり		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	はるの基本方針あり。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域運営推進会議を実施している。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の新年恒例会、または、はるの開園記念日には、記念品を持参する程度であり、隣近所との付き合いはあまりない。	○	近所の方が気楽に来れるように、働きかけたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	忠和の親睦団体に参加し、毎月(冬期間は除く)の例会・総会等等、交流を深める努力をしている。 町内会に参加しているが、これはあくまでも個人の参加で、団体での参加は認められていない。 町内のお祭り、鼓笛隊などは、積極的に見学。 春の大掃除などには、利用者と共に公園などの清掃を行っている。	○	団体として町内会の参加を認めていただき、町内会各種行事に参加したい。
6	○ 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方に、地域運営推進会議のメンバーとして参加していただいている程度。	○	地域の社会資源の活用について、会議で話し合いを持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○ 評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善に取り組んでいる。		
○ 運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的に行っている。		
○ 市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	会議・研修会の提出以外には行き来する機会は少ないが、生活保護の利用者については、保護課職員と連携の上、行き来する機会を設けている。		
○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を活用はしていないが、すでに研修会に参加し、その必要性は感じているところである。	○	身元引受人の不明な人については、成年後見制度の活用が必要と思われる。
○ 虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の観点から、利用者の権利を作成し、職員にも周知している。	○	毎月開催しているフロア会議(サービス担当者会議)において、改めて虐待の事実がないかを確認していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
○ 契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見はない、食堂に目安箱を設置している。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	3ヶ月に一度お便りで、近況を報告、面会時にも状況を伝えるようにしている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見は、記録に残し職員間で共有し、上司にも報告をしている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各種会議(全体会議・フロア介護等々)にて、職員の意見を聞き、日常の活動に反映させている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	話し合いをし、上司に相談出来ている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	約3ヶ月に一回のローテーションにて各フロア1名づつの異動を行っている。最低限の一名づつの異動であるから、利用者へのダメージを防ぐことが出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種研修会等には、おおいに参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	各種研修会等に参加することによっての同業者との交流の場、また同業者(1件)との相互訪問等を実施。	○	同業者との相互訪問の働きかけ。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	例年、社員の旅行会(予算100万)の実施、年に数回の飲み会の実施。休憩時間はプライバシーを尊重し、個室でゆっくり休めるよう配慮し、また喫煙も容認している。	○	飲み会には、概ね全職員が参加する。親睦旅行には、決まって参加をしない職員がいる、旅行会のあり方の検討が必要。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	向上心を持って働いていると思う。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所希望のため、見学に来た折には、面接をし、問題点を分析するなど「課題分析」に努めている。	○	今後、療養病床の削減に伴い、医学的管理が必要な人、あるいは、末期がんの人の受入も増えると思われ、職員の勉強会なども必要と思われる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者ばかりでなく、家族の訴えを十分に聞く姿勢をいつも持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	場合によっては、グループホームでは受け入れられないケースもあり、本人にとって、どこが最適か見極める努力をしている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所することに本人が納得しない、時などは、おやつの時に来てもらったり、昼食を家族と同席してもらうなどの対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中、また各種行事等で、共に時間を共有することによって、利用者の性格を知り、仲間意識が芽生え、より良い信頼関係を構築することが出来る。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に入所者をお世話することを念頭に、また機関紙等の発行などで、家族とのコミュニケーションをはかることを重視している。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入所後に良好な親子関係を取り戻したという報告を聞き、家族と職員の協力体制が成り立っている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努力しているが、なじみの人や場所との関係は途切れてしまっているのが現状。	○	施設に閉じこもることなく、本人のなじみの場所とのつながりを持たせて行きたい。(外出行事の実施...ドライブ、買い物、散歩等々)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の生活の中、また各種行事等で、共に時間を共有することによって、利用者同士の仲間意識が芽生え、より良い信頼関係を構築することが出来ている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約修了者に対する関わりは特に持っていない。	○	今後、必要であれば、どんな形で継続できるか、検討していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を用いて努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式にて把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間生活シート(日誌)の記入により把握している。	○	現状のシートに不都合があれば、改めていくなど検討していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	フロア会議での職員の意見、家族の意向を踏まえた計画書の作成に努めている。	○	作成された計画書の周知については、別途会合など設け浸透したものに行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回の介護計画変更は行っている、また状態像が変わった場合には、その都度介護計画書の見直しを行う。		
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録にそれぞれ記録されており、十分共有されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	必要に応じ事業所の持っている多機能性を本人や家族に提供している。	○	町内に事業所の多機能性を開放していく取り組みを考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員とは、地域運営推進会議等で話し合いはある。警察(交番)・消防などは、敬老会の記念の粗品を持参する程度。	○	民生委員以外にも面識があると心強い。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	月に一度、他のグループホームのケアマネージャと情報交換をおこなっている。		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	毎月会議を行い、協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の看護婦長の週一回の訪問、医師の月一回の訪問などにより、利用者の健康管理に努めている。年に一回はミニドックを受診し、精密検査、あるいは、入院が必要になった時は、速やかに支援するようにしている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	旭川赤十字病院精神科に数名受診しているが、その際に医師に色々相談をしている。		
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在3名の看護職員を確保し、週一回の協力医療機関の看護婦長の訪問を受け、健康管理に努めている。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院時には必ず職員も同席し、病院関係者との連携に努めている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期においては、何より本人と家族の要望に答えるようにし、かかりつけ医師との連絡も密にとり、全員で支援している。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化したり、終末期の近づいた利用者への対応については、何時もスタッフが申し送りなどへの記録により、統一した支援体制で臨んでいる。本人、家族の意向を尊重し、かかりつけ医との相談も欠かさず行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	どんな場合でも、受け入れる態勢を持ち、否定的な言葉がけなどは控えるよう努めている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来ている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来ている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2ヶ月に一回理容師が来訪、美容室は、本人の希望によりその都度。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来ている。		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用者の、排尿、排便の記録(排泄パターンの把握)することで、ポータブルトイレに移行できるように支援をしている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回限られた時間での入浴であるが、他のユニットの入浴日を利用すれば、週4回の入浴が可能である。お風呂好きな人、2名が週4回の入浴を楽しんでいる。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの利用者に寝具類の洗濯なども記録し、いつも清潔な状態になっているよう支援している。	○	布団の丸洗いを年に一回行っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々生活の中に書き取り、書道、盆踊り、体操、歌などを余暇活動として取り入れている。毎年行事として、美瑛の丘、紅葉散策などを可能な限り外出の機会をもっている。	○	重度の被介護者への楽しみのある支援のあり方を考えていきたい。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、買い物同行、外気浴等を実施。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	飲み会、歌謡ショーなどに職員が一緒になって出かける。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出来ている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束者なし。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊等の問題行動を持つ利用者が行方不明になった経緯もあり、玄関は施錠している。 利用者の安全確保の為、やむを得ない措置と、家族にも理解してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	見回りを行っている。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	出来ている。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる。	出来ている。		
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	避難訓練は実施している。		
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている。	年に一回、避難訓練を行っているが、地域の人々への協力を働きかけてはいない。	○	近隣の住民の方たちや、警察、消防にも協力が得られるような働きかけが必要と思われる。 緊急連絡網に近隣の連絡表を作成。
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックなどで体調の変化に注意し、早目の病院受診を心がけている。		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬効などについては、処方箋を見て、確認するようにしている。薬局にて一包化してくるもの、職員が分包するものがあるが、誤薬のないようつとめている。		
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日の水分摂取を記録し、便秘になりがちな人には、下剤を調節したり、水分摂取に努めている。		
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自力で歯磨きができる人には、出来るだけ声かけをし、自力で出来ない人については、入れ歯の洗浄、うがいに心がけている。又、週に一回ポリドントを使った洗浄を行なっている。		
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、一人ひとりの体調の把握に役立てている。又、食事介助の必要な利用者には、飲み込みの状態に気を使いながら、支援している。	○	献立票を栄養士に見てもらい、アドバイスをしてもらえる機会等を設けたい。
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対策の一つとして、塩素系漂白剤による、手すりの消毒を一日に二回行っている。又、消毒液(オスバン液)の薄め液での床拭きを毎日施行している。利用者には、食事前の石鹸での手洗いなどを励行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	二日ごとに食材の買出しをし、常に新鮮な材料を使うよう心がけている。又、調理器具などは毎日、漂白剤につけるなどで衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	やむを得ず施錠しているので、不便さはある。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔に心がけ、又、季節にあった創作物を飾り、四季の移り変わりを感じられるよう工夫している。		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	出来ている。		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来ている。		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時に換気している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ている。		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ている。		
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	出来ている。(玄関そばにベンチあり)		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☆ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☆ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☆ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☆ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☆ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☆ ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☆ ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☆ ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

消毒を徹底しており、食中毒が出たことがない、又、手作りの心のこもった食事のせいか、利用者さんはめったに風邪をひかない。おいしい。